

107のキセキ

「107のキセキ」を振り返って

第7学年主任

昨年の4月、この福井大学教育学部附属義務教育学校後期課程の学舎で出会ったときの新たな門出への期待や不安に満ちたみなさんの表情を今でも鮮明に思い出されます。それほどみなさんと過ごしたこの一年間にはいろいろなことがありましたが、あっという間に過ぎていったように思います。初めて学年全員で創り上げた学年目標「107のキセキ」は、「信頼」・「個性」・「主体性」を大切にしたいという思いのもと決められたものでした。「キセキ」にはたくさんの意味が込められているもので、その「キセキ」を学年みんなで見つけていこうという願いでもありました。

そこで、みなさんと過ごしたこの一年間の「軌跡」を振り返り、私自身が考えたり学ばせてもらったりしたことをほんの少しだけ記します。

「JAS」。これはみなさんに学校生活を送る上で大切にしてもらいたいと示した合い言葉です。「J」は「時間を守ること」・「授業を大切にすること」、「A」は「あいさつをしっかりとすること」、「S」は「掃除を一生懸命にすること」というものです。

J【時間を守ること】

この一年間、みなさんは時間を守ることができました。特に印象的なのは、生活委員のみなさんが、給食準備の時間に教室に戻るよう呼びかけていたことです。生活委員のみなさんが廊下に立って、「教室に戻ってください。」という声が、給食前にほっとして過ごしている仲間たちに、時間を守って行動する意識を高めていました。

【授業を大切にすること】

みなさんはどの授業でも、楽しみながら真剣に学んでいました。学年プロジェクトの学習では、文化祭後に、「Happy World in The Future」に向かって思うように探究を進められない時にも、諦めずみんなで意見を出し合いながら、どうにかして突破口を見出そうと粘り強く議論している姿がとても誇らしく思いました。そして、学年道徳「Make a Wish of Japan」の講演会で、「幸福」は誰かのためになることだと掴んだ後のみなさんのプロジェクトを楽しそうに進めている姿には、頼もしさを覚えました。

A【あいさつをしっかりすること】

本校には国内外からたくさんの方々が来校されました。その度にみなさんは、場に応じたさわやかな声や表情であいさつをしている姿がとても印象的でした。その他にも、私が7年廊下を通ったり、みなさんと廊下をすれ違ったりした時に、友達との会話を中断して大きな声で「こんにちは！」とあいさつをしてもらおうと同時に、「今日もがんばろう！」と元気をもらうことができました。あいさつ一つで人の気持ちに勇気を与えるのだと学ばせてもらいました。

S【掃除を一生懸命にすること】

4月はじめの学年集会で、掃除という活動は、いくらでも手を抜くことができるもので、その中で一生懸命にできることは自分自身の心を磨くことになるというようなことを言いました。この一年間、清掃担当として清掃時間中に全校を巡回させてもらいました。私の話を受けて、7年生のほとんどのみなさんは、整美委員長が提唱していた「無言清掃」・「隅々まで清掃」を意識して、一生懸命に取り組んでいました。自分自身の心を磨いているみなさんの姿に、これからの学校をさらにより良いものにしていける力を感じました。

これらのようにみなさんの「軌跡」を振り返りながら一部紹介してきましたが、その他にもみなさんのすばらしいところがあちこちでたくさん見ることができました。みなさんの素敵な姿は、みなさん一人一人の「個性」を「主体性」をもって磨き、たくさんの「輝く石(キセキ)」を集めてきた姿であると言えるでしょう。私は、この「輝く石(キセキ)」をたくさん集めることが、周囲の人々の「信頼」につながっていくことだと信じています。

この1年間、学年のみなさんがこの学舎で出会い、教職員スタッフ、みなさんをサポートしてくださった方々と出会い、たくさんの「奇跡」を繰り返してきました。みなさんはこの4月から8学年に進級します。中堅学年として、「信頼」・「個性」・「主体性」を心に刻み、いろいろな人たちや学びとの出会いの「奇跡」を大切にして、たくさんの「輝く石(キセキ)」を集め続けていくことを信じています。



第57回卒業証書授与式

令和2年3月11日（水）

- 一 開式の辞
- 一 卒業証書授与
- 一 学校長式辞
- 一 在校生送辞 在校生代表
- 一 卒業生答辞 卒業生代表
- 一 閉式の辞



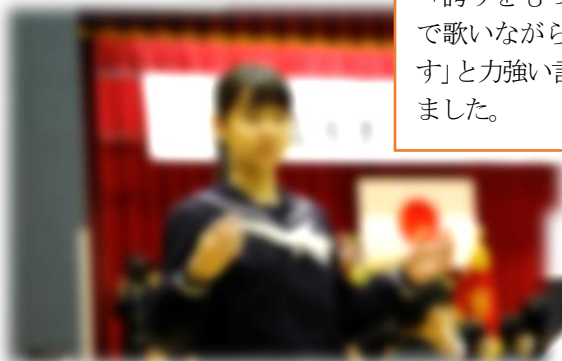
例年と違う形で行われた卒業証書授与式でした。ほぼ練習無しで臨んだ9年生でしたが、堂々とした態度でした。



式後は育友会企画のスライドショーがあり、会場は笑顔に包まれました。その後、後期生徒会長から、保護者のみなさまに心のこもったお礼の言葉がありました。



9年生は校歌で入場し、「Hallelujah（ハレルヤ）」で退場しました。どちらもピアノ伴奏のみの入退場となりました。後期音楽委員長より「誇りをもって心の中で歌いながら退場します」と力強い言葉がありました。



送辞

116名の卒業生の皆様、本日はご卒業、おめでとうございます。在校生を代表して、心からお祝い申し上げます

今年は、感染症の影響で先輩とは突然の別れになってしまい、最後の金曜日に9年生が下校する姿を、窓から寂しそうに見ている8年生が何人もいました。

先輩方には、感謝の気持ちでいっぱいです。日頃の学業や部活動、そして学校行事のたびに、多くのことを学ばせて頂き、何をするにも先輩のやってきたことを思い出したり記録を見たりして、先輩方の姿を目指してこの中学校生活を頑張ってきました。

体育祭や文化祭を本気で楽しむ姿、リーダーとして委員会や生徒会を引っ張っていく姿を、いつも見ていました。そんな先輩方との別れは、本当に寂し

い限りです。

福大附属は、学年を超えた縦のつながりが強い学校だと思っています。他学年とのつながりを深める「附族タイム」で、僕は初めて先輩方と関わりました。その時、入学して間もなかった僕は、先輩方のコミュニケーション能力の高さに驚いたのを覚えています。

「赤組祭」「金碧輝煌」「ど紺性」これは、体育祭で掲げた各色のテーマです。今年の体育祭は、大雨によって延期になりましたが、翌日の晴天により、なんとかやり遂げることができました。僕は、チーム一丸となって競技に挑み、協力し、共に笑い合っている先輩方の姿に感動しました。9学年だけでなく、8年生と7年生をも巻き込む姿を見て、こんな先輩になりたいと思いました。

また、先輩方と部活動で過ごした時間は、言葉では言い表せないほど充実したものでした。

僕が所属している男子ソフトテニス部の先輩方は、プレイの面でもメンタル面においてもとても強く、部活動以外の学校生活でも活躍していて、いつも優しく時に厳しかった先輩方を、本当に尊敬しています。先輩方が築きあげた部活動を、これからも8年生が率いていけるよう頑張っていきます。

先輩方がいない附属の生活が始まる、というものが、どれだけ厳しいことかはまだ想像ができません。きっと僕た

ちに試練の数々が待ち構えていることでしょう。しかし、この福大附属の伝統を、受け継いでいけるよう、在校生一同頑張りたいと思います。

先輩方がこれから歩む道は、決して楽な道ではないと思いますが、福大附属での学びを心の糧とし、頑張ってください。

最後に、卒業生の皆様のご健康とご活躍を願って、この送辞の結びとさせて頂きたいと思います。今までありがとうございました。

令和二年三月十一日

在校生代表



答辞

暖かい陽の光が降り注ぎ、桜の蕾も膨らみ始め、春の訪れを感じる今日、私たち57回生116名は卒業の日を迎えました。本日はお忙しい中、私たちのためにご臨席くださいました皆様、誠にありがとうございます。

思い返すと、小学校時代の友達と附属の門をくぐり、合格発表を待った3年前。不安で息が詰まりそうになっていた中で、ボードに自分の番号を見つけ友達と喜び合ったことを今でも鮮明に覚えています。期待いっぱいの気持ちで、福井大学教育学部附属義務教育学校に入学し、常に互いをライバルとして競い合い、また支え合いながら過ごした3年間は、本当にあっという間でした。附属ならではの授業や“学年プロジェクト”などの活動では、自分の役割・責任の重さを強く感じ、それまでの入学の喜びや期待は不安へと変わり、活動の中での悩みや失敗で心が折れそうになった事が何度もありました。そ



の時、友達が「無理しないで」・「手伝うから一緒に頑張ろう」と声をかけてくれ、相談に乗ってくれたり、作業を手伝ったりしてくれました。その差し伸べてくれた手が、とても嬉しくて大きな支えとなりました。そんな競い合い、支え合える友達と出会えたことは、私たちの一生の宝物です。そして「自主協働」に基づき、支え合いながら行ってきた附属での活動は、私たちにみんなを巻き込む方法や、自分たちに必要なもの・自分たちが求められている事などを考えさせる機会を与えてくれました。そして色々な視点で物事を見ること・自分の意見や発言に自信を持つことなど沢山の事を出来るようにしてくれて、私たちを大きく成長させてくれ

ました。そして附属での活動は私たちに沢山の思い出もくれました。クラス・学年・附属の仲間と過ごした何気ない日々は今ではかけがえのない時間に思えます。いつもは変わらないと思っていた日常、仲間がこれから変わっていくと思うと不思議と懐かしく、そして寂しく感じられます。

7年生。突然始まり何もわからないまま、新しい仲間と協力し作り上げた宿泊学習。理想の学年像、学年目標決めの中心に活動し、長い時間の討論の結果、私たちの学年目標は「夢源の翼」に決まりました。これには、“活動の中で一人一人が自分の翼を広げ、夢や高みを目指す”という意味が込められています。宿泊学習で深めた絆から私たちは「自主協働」を大きく実感し、学校生活への大きな一歩を踏み出しました。7年生の活動は、何もかもが初めてで毎日が新鮮でした。当時は前に進むために必死で、何度も悩み失敗して、不安を抱えながら活動をしていましたが、今

思うとその不安や悩み・失敗が私たちの活動をより濃いものにし、深い学びを生み出して、私たちの成長に繋げてくれていたと思います。

8年生。私たちにも後輩ができ、「先輩」と呼ばれる立場になりました。附属の生活にも慣れ、先輩の自覚を持ち行動にメリハリが付き始めました。8年生で一番心に残るものは、修学旅行了。私たちの学年プロジェクトのテーマ「職業」の最終目標が“職業を通し私たちが考えた事・これからのキャリア教育への意見をまとめた本を作り同年代の中学生と交流する”ということに決まり、最終目標に向かい“一人一人が学びを修める”ということを目的に、沢山話し合いながら作り上げた修学旅行。修学旅行プランを始め、全てを決める1回1回の討論は毎日が言い争いの日々で、すごく不安でしたが、創作音楽ドラマ“あなたにとって職業とはなんですか”や、部門交流、職場訪問、東京大学の学生との交流と様々な活動から、学年

プロジェクトの発信や考えを深めることはもちろん、私たちが個人としても成長できるような修学旅行になりました。そんな修学旅行になったのは、一人一人が修学旅行に込める思いが強く、毎回討論を繰り広げたことが、いろいろな活動の可能性を広げていたのだなと、今だから思います。

そして9年生。体育祭と文化祭がありました。体育祭も文化祭も7・8年とも行ってきた行事でしたが、最後だからこそ頑張ろうという気持ちの裏に少し寂しさを持ちつつ、楽しく全力で取り組んだ事を今でも昨日のように覚えています。体育祭ではテーマ“雲外蒼天”に基づきどの組も努力して優勝という名の青空を掴み取るために全力で取り組んでいました。赤組は“体育祭を赤組で染め上げる”という意味で「赤組祭」、黄組は“黄組が1番光輝く”という意味で「金碧輝煌」、青組は“粘り強く最後まで諦めない”という意味で「ど紺青」というテーマで、それぞれの組がテー

マに沿い全力で競い合う姿は青空に輝く太陽のようでした。

文化祭では、9年生は演劇活動があり、準備段階から各クラスみんなで1から作品を創り上げました。一人一人役割は違うもののみんなが役割をカバーしあい、その助け合いが作品に繋がりを、クラスの個性が出る演劇でした。このような学年プロジェクトを中心とする活動をこの仲間と協力し取り組んできた事で、協力することの大切さやみんなで成し遂げた時の達成感なども学びました。「職業」を探究する中で視野が広がり、自分たちの将来に対応出来る力を付けることができたと思います。全ての活動に全力で取り組んでいるうちに、一つ一つ行事があっという間に終わっていき、そのたびに「終わってしまった」と寂しく感じました。思い返すともう一度戻りたいと思うのは、毎日の学校生活がそれだけ充実していた証拠だと思います。

附属での生活は本当にどれもかけが

えなく、部活動や生徒会活動などでも色々な経験をさせてもらいました。どの活動も自分一人では出来ず仲間と協力しないと成し遂げられないものばかりで、学ぶ事が多かったです。準備や話し合いでは意見がぶつかりあったり、喧嘩になったり、楽しい事ばかりではありませんでしたが、衝突し合う中で相手を知り、上手く行かなかった時の反省や、上手くいった時の喜びを共有することが出来たことは、とても良い経験になりました。本当に附属での活動は私たちに沢山のものを与えてくれました。

本日、この会場に席を並べることは叶いませんでしたが、在校生の皆さん、今まで私たちを支えてくださってありがとうございました。皆さんと過ごした日々も私たちにとって、かけがえのない思い出となっています。はじめにも申した上げた通り、3年間はあっという間です。だから皆さんには、勉強や部活動はもちろん、友達と過ごす時間

さえも大切にし、一日一日を過ごしていただきたいです。そして春からは皆さんが附属の伝統を引き継ぎ、それぞれの目標へ向かって努力を重ねてください。その中で皆さんは様々な困難にぶつかることと思います。しかし、皆さんは一人ではありません。保護者の方々や地域の方々、そして附属の先生方や友達など、たくさんの方々が見守ってくださっています。そのことに感謝し、もし何かあった時は決して一人で抱え込まずに相談してみてください。そして、中学生として残された時間を悔いがないものにし、これからもたくさんの人に応援していただけるような、附属生であってほしいと思います。

卒業生の皆さん。長いようで短かったこの3年間、楽しいことだけではありませんでしたが、どんな時も支えあい、高め合えるこの仲間とともに3年間の学校生活を送ることができて本当に幸せでした。毎日のたわいもない話

も、試験勉強に追われた日々も、今となつては懐かしい思い出の一つです。時には壁にぶつかることもありましたが、そんな日があったからこそ今の私たちがいます。これから歩む道はそれぞれですが、支えてもらった方々への感謝と附属での生活で学んだことを胸にそれぞれの道を進んでいきましょう。最後になりましたが私たちをそばで支えてくださった先生方。毎日の授業だけでなく個別指導や進路相談にも丁寧に対応してくださいました。先生方の各教科に対する思いは、私たちの好奇心を掻き立て、学ぶことの喜びを教えてくださいました。また一人ひとりの自主性を尊重して見守っていただき、悩んだ時には的確なアドバイスで導いていただきました。時には厳しく指導していただき、学習面だけでなく精神面でも大きく成長することができました。未熟だった私たちがここまで成長できたのも先生方の細やかなご指導のおかげです。本当にありがとうございます

ました。

身近なところで支えてくれた一番の理解者であるお父さん、お母さん。思春期の私たちはなかなか素直になれず、私たちのためを思ってかけてくれた言葉をなかなか受け入れることが出来ず、辛辣な言葉を返してしまったこともあったと思います。それでも、どんな時も私たちの意見を尊重し受け止め、辛い時もそっと背中を押して、毎日笑顔で見守ってくれたその温かさが本当に嬉しくて、実は何度も心の中でありがとうと言っていました。普段は照れくさくて言えないけれど、いつも感謝しています。ここまで育ててくれて本当にありがとうございます。私たちはだんだん自立していき、いつか親元を離れていきますが、それまでもうしばらくはお世話になります。これまで積み上げてきた努力や学びを胸に、私たちはこれからも学年目標「夢

源の翼」のように、自分の羽を広げて
夢や高見に向かい、進んでいきます。

私たちの学校生活を支えてくださった
全ての方々に改めて御礼申し上げますと
ともに、福井大学教育学部附属義務教

育の更なる発展を願って、答辞とさせて
いただきます。

令和二年三月十一日

卒業生代表

